

長野オリンピック、ジャンプの原田選手は見事でした。団体戦。4年前自分のミスでほとんど手中にしていた金メダルを逃し、今回も1回目のジャンプは失速。絶体絶命のピンチに立たされ、計り知れないほどの重圧の中で最長不倒の大ジャンプ。

まさにドラマでした。

悲劇のヒーローが空中に飛び出した瞬間、神様がそっと体を持ち上げてくれたかのようにでした。

この4年間家族も辛い思いを強いられ、両親は周りに頭を下げ続けてきたといえます。

努力が報われて本当に良かった。

人間やればできるという事を教えてくれました。

絶対にできる。絶対に治る。絶対に生きる。

信念を持って生きればきっと神様も応援してくれる。

原田選手は信じて生きることを教えてくれました。

#### < 第 3 2 回 ほほえみの会 >

参加者は7人で臍帯血移植について話し合いました

臍帯血とは産まれてくる赤ちゃんのへその緒の中の血液のことです。これが非常に造血作用があるという事で、骨髄移植の骨髄に変わるものとして注目を浴びています。

既に日本でも30数例が行われています。

通常の骨髄移植はHLAの型が合うのが大変でドナーとの調整にも時間もかかります。

またドナーも採取には全身麻酔が必要で時間とリスクもあります。

その点、臍帯血はまず採取が楽で危険がありません。

出産の時、子供が産まれたあと胎盤につながるへその緒から血液を注射で取り出すだけです。母胎に負担はかけません。

またHLAの型が少し違ってても移植できる利点があります。

通常の骨髄移植では6つあるHLAの型の内6つ全てが合わないと移植できません。しかし臍帯血の場合は5つ合えばいいのです。

さらに拒絶反応も少ないと言われています。

問題がないわけではありません。

まず採取できる量が限られ、今のところ体重30キロ以下の人しか移植できません。外国では大人にも移植している例があるようですが、やがて増殖する技術ができるかもしれません。

また採取の時に細菌が入ってしまうと使えず、産婦人科医が採取にまだ積極的でないことや、採取自体が医師のボランティアによるものとなっている現状があります。

その他、保険医療に指定されていないこと。

検査費用や冷凍保存費用、それにコーディネーターや人件費などの問題もあります。

一方で、厚生省も臍帯血には関心を示しバンクの設立や海外との提携など積極的に進める動きも出ています。

リスクが少なく、メリットの多いこの臍帯血に大きな期待をしたいと思います。

次会は 3 月 日 ( 日 ) 1 2 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一